



追悼 東郷正延先生（1908-2002）

佐藤 純 一

日本ロシア文学会第6代会長東郷正延先生は本年2月13日肺癌のため、入院先の都内世田谷区の病院で忽然と他界された。間もなく94歳の誕生日を迎えられるはずだったと伺っている。

東郷先生はご高齢にもかかわらずごく最近まで極めてお元気で、東京ロシア語学院の院長としてお勤めの傍ら、同学院でのロシア語の授業を続けることを無上の楽しみとされ、12月中旬の年末最後の授業まで平常通り教壇に立たれたが、1月早々呼吸の苦しさを訴えられて入院、一カ月ほどの治療で小康を得られたところ、突然容体が急変して亡くなられた由である。

先生は1908年（明治41）茨城県のお生まれで、地元の名門土浦中学を経て1927年（昭和2）東京外国語学校露語部に入学され、その後75年に及ぶ長いロシア語人生のスタートを切られた。生来の「語学好き」の先生は八杉貞利、除村吉太郎両教授の薫陶を得て優秀な成績で1931年同校を卒業、直ちにソ連通商代表部に職を得られたが、数年後に陸軍教授に転じ東京陸軍幼年学校のロシア語教官として1945年の終戦まで勤務された。この間すでに『初級ロシア語文法教程』（六盟館、1944）の著作がある。

戦後東郷先生は1946年から約10カ月善隣外事専門学校の特任教員としてロシア語の授業を担当されたが、1947年には母校の後身である東京外事専門学校のロシア科助教授に就任され、1949年同校が新制の東京外国語大学に改編されるに伴い同大学の助教授として引き続きロシア語の教育と研究に当たられた。1957年教授昇任、その後1971年に定年退官されるまで通算24年在職された。

戦後初期のロシア語教育における先生の令名は全3巻の名著『東郷ロシア語講座』（白水社、1951-52）によっていちはやく知られたが、『ナウカ・ロシア語新講座Ⅲ（初級よみもの）』（ナウカ、1951）、『東郷やさしいロシア語講座』（五月書房、1954）などの単著の刊行のほか、『日ソ学院版ロシア語講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（酒井書店、1956-58）の共同監修に当たられるなど、そのご活躍ぶりはまことに目ざましいものであった。

さらに1956年、日ソ国交回復の年に東郷先生を初代講師として始まったNHKのラジオロシア語講座を

11年にわたって担当され、先生のお名前と独特の茨城訛りの名調子の講義は全国津々浦々のロシア語学習者の耳に親しいものとなった。

先生の絶えざる工夫と実践によって確立された初歩のロシア語教授法は上述の多くの独習用参考書のみならず、『最新ロシア語文法読本』（湊書房、1951）、『簡約ロシア語文法』（白水社、1957）、『ロシア語教科書Ⅰ・Ⅱ』（現代ロシア語社、1972）などのような大学や種々の講習会の授業のために作られた教科書や読本に具体的に示されており、最近まで多くの教師と学習者に恩恵を与え続けて来た。

先生にはまた、『かたことのソビエト旅行—ロシア語ABC』（講談社、1965）、『ロシア語のすすめ』（講談社、1966）のような出色の啓蒙のための読み物をものされる一面もあり、先生が主編者となって他の6人の著者たちとまとめられた『ロシア・ソビエトハンドブック』（三省堂、1978）とともに当時のソビエトロシアに対する的確な知識を供給する信頼できる手引きとして歓迎された。

定年退官後の先生のお仕事としては、画期的な『研究社露和辞典』の編纂（1988年完成刊行）、日本ロシア文学会会長就任（1981-85）、日ソ学院（現東京ロシア語学院）におけるロシア語教育の実践指導（1983年以降は院長兼務）の三つがあげられるが、いずれにも若々しい情熱を傾けて取り組まれ、身をもって後進に模範を示された。穏やかな白髪瘦身のお姿の中に質実剛健の強い意志を秘められたお人柄が懐かしく偲ばれる。ご冥福を切にお祈りする次第である。